

## 平成30年度 学校評価のための生徒・保護者アンケート分析結果について

巨摩高校定時制

### ◇今年度の目標について

・学校目標・経営方針 「健康で、明るく、思いやりのある心の温かい生徒を育成する」

#### ・重点目標

- 1 学ぶ意欲を育てるように授業を工夫し、基礎学力を身につけさせる。
- 2 キャリア教育を充実させ、個に応じた進路指導を展開する。
- 3 多種多様な体験学習を展開して、生徒の生きる力やコミュニケーション能力を育成する。
- 4 保護者、地域に積極的に学校情報を発信し、理解を得る。

### ◇重点項目ごとの分析結果について

#### 1 学ぶ意欲を育てるように授業を工夫し、基礎学力を身につけさせる。

##### <生徒>

授業のわかりやすさや工夫については昨年より約10ポイント上がり、平均で90%になった。逆に、学習意欲については肯定的回答がここ数年の平均より大きく下がっている。学習意欲や理解力に差があり、少人数ながらも学力格差の大きい集団になっている。肯定的な評価でない40%近い生徒の学習意欲を向上させるためにも、大型モニターを積極的に活用するなどより質の高い授業を実践して、今後も継続した努力をしていきたい。

##### <保護者>

保護者の肯定的な回答は約88%で昨年より下がったが、全校体制で実施している作文力の向上、生徒の活動を重視した授業展開やICT器機を活用した取り組みが評価されているようである。

#### 2 キャリア教育を充実させ、個に応じた進路指導を展開する。

##### <生徒>

進路に関して相談しやすい、支援がしっかりしているとする肯定的回答は昨年とほぼ同じであるが、進路講話や企業見学は大きく下がった。事前指導を充実させるなど生徒にとって有益な行事・企画になるように、再検討したうえで実施していきたい。

##### <保護者>

進路指導については、昨年度を若干下回った。職業観や勤労観を高めたり、進路的行事に保護者の参加を募るなど、工夫した取り組みをしていきたい。

### 3 多種多様な体験学習を展開し、生徒の生きる力・コミュニケーション能力を育成する。

#### <生徒>

昨年度と比較して、地域学習としてのもの作り、総体・学園祭などの生徒会行事がほぼ同じで、生活体験発表、あいさつ・マナーは10ポイント以上下がった。一因として年々低下している生徒の文章作成能力も関係していると思われる。生徒自身が自ら考え実践し、粘り強く取り組むことができる体験活動の機会を多く持てるような、年間計画を作成していきたい。

#### <保護者>

今年も昨年度以上の肯定的評価を受けている。体験的な学びが保護者にも支持されているが、生徒の社会的資質の向上にまで結び付くように、さらに工夫していきたい。

### 4 保護者、地域に積極的に学校情報を発信し、理解を得る。

#### <生徒>

学校ブログは10回更新し、巨摩定通信は4月から毎月発行してきたが、肯定的回答は一昨年度以前と同じの30%代に減少した。ブログは生徒にとって既知の情報が多いが、認知度のアップも含めて、今後も有益な情報を提供していきたい。一方、学校からの配布物を保護者に見せる生徒は若干増加して69%になった。

#### <保護者>

保護者のブログ閲覧や学校の様子は、それぞれ85%、62%と昨年度と比較してともに減少した。しかし、「巨摩定ブログ」は今年も閲覧回数は1万を超え、「巨摩定の今」を広く発信している。今後とも開かれた学校として情報提供に努めたい。

### ◇本校での学校生活全般について

#### <生徒>

家庭で学校の話をよくしている生徒は昨年よりも7ポイント下がり54%になったが、本校に入学してよかったとする生徒の割合は、80%を超えており学校としては肯定的に評価されている。

#### <保護者>

生徒が学校生活を楽しいと感じ満足している、本校に入学させてよかったとする保護者は昨年より若干ではあるが減少した。